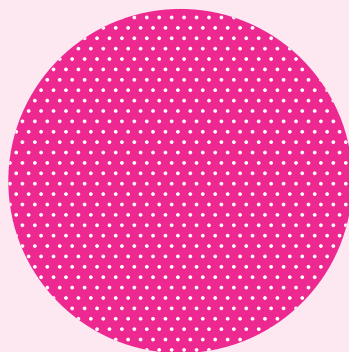
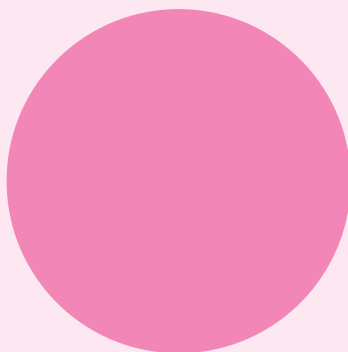
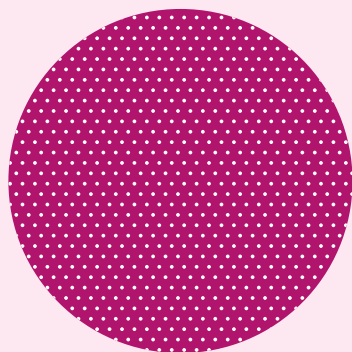
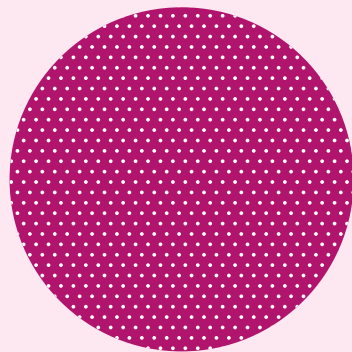
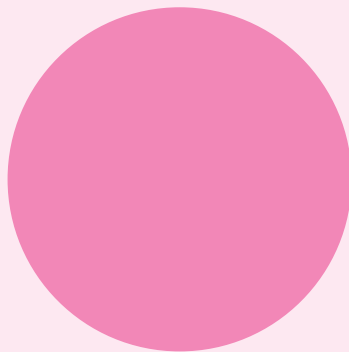
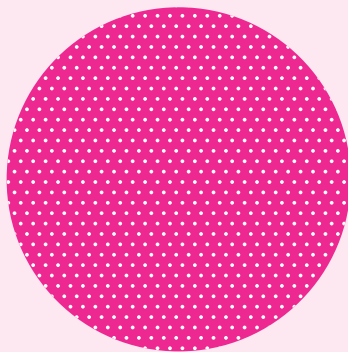


平成25年度版

発見つるみ!

～データでみる鶴見区～



はじめに

区民の皆さまには、日頃より、区政の推進に御理解、御協力をいただきましてありがとうございます。

鶴見区は、昭和2年の誕生以来、臨海部の産業の発達とともに、住宅地と商業地が発展し、平成25年12月には、人口が28万人(市内18区中第3位)に達するなど、まだまだ成長を続けています。そして現在も、更なる発展を目指し、「笑顔と元気の輪が広がるまち『つるみ』」を合言葉に、区政を進めているところです。

本書は、鶴見区に関する統計データを中心とした、鶴見区の特徴をまとめています。これまでの鶴見、そして、これからの鶴見を考えていただく際の資料として、御活用いただければ幸いです。

最後に、発刊にあたり、貴重な資料を御提供いただきました関係諸機関をはじめ、御協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

平成26年1月

鶴見区長 征矢 雅和

目次

1 鶴見区のプロフィール

区の歩みと現状・誕生・地勢	1
略年表	2
鶴見区的主要指標	3

2 人口

人口の動向	4
年齢別人口の状況	5
外国人住民	7
流出人口・流入人口・昼夜間人口	8
労働力人口・就業状況	8

3 産業

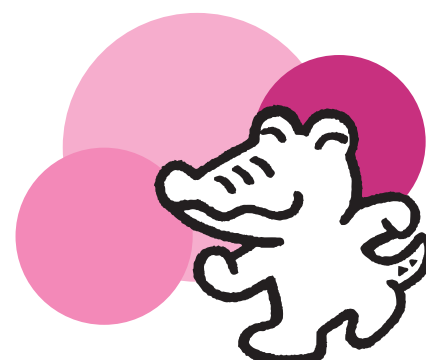
事業所	9
商業	10
工業	11

4 暮らしと環境

住宅・消防	12
交通・犯罪	13
環境	14
区民フェスティバル	15
市税・戸籍	16
生活保護・子育て	17
健康・選挙	18

コラム～幻の東京オリンピックと鶴見～

つるみマップ



～ご利用にあたって～

※ 構成比、総数の合計については、端数を四捨五入しているため、必ずしも内訳計と一致しない場合があります。

鶴見区のプロフィール

区の歩みと現状・誕生・地勢



鶴見区シンボルマーク
平成3年2月14日制定

区制施行:昭和2年10月1日

〒230-0051

鶴見区鶴見中央三丁目20番1号

TEL:510-1818(総合案内)

FAX:510-1889

- 面積: 32.38km²(平成25年10月1日現在)
- 人口: 279,315人(")
- 世帯数: 129,024世帯(")
- 区民の花: サルビア(平成3年11月制定)
- 区の木: サルスベリ(平成9年10月制定)
- マスコット: ワックン(昭和63年1月制定)



■ 区の歩みと現状

鶴見区は市の北東部に位置し、昭和2年10月1日、横浜市の区制施行により誕生しました。「鶴見」の名は鎌倉時代の史料からも現れており、源頼朝がこの地で鶴を放ったという伝説からその名がついたという説もありますが、「ツル」は「鶴」とは関係なく水路や河川の周辺の地を、「ミ」は「まわり、めぐり」を意味する語で、「ツルミ」は蛇行している鶴見川の地形を表しているという説もあります。

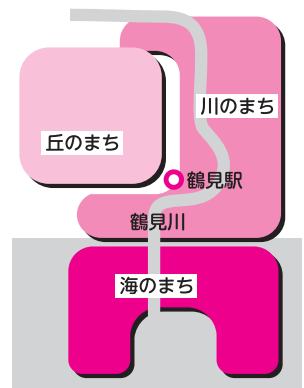
鶴見は、江戸時代のころより鶴見川の水運や東海道を往来する人によって、川筋や街道筋が賑わっていました。漁業が盛んだった沿岸部では、明治のころより埋め立てが進み、京浜工業地帯の中核として日本の重化学工業を支えてきました。戦後は、高度経済成長とともに、商工業の集積と人口増加が進みました。

現在の鶴見区は、約28万人の人口を擁し、住宅地が連なる丘陵部「丘のまち」、鶴見川に沿った「川のまち」、臨海部の「海のまち」で構成されています。

住宅地が連なる市街地や、斜面樹林を背景とする神社仏閣が点在する「丘のまち」では、自然や歴史をいかしたまちづくりが進んでいます。

鶴見川を中心とした「川のまち」では、工場から住宅などへの利用転換が進み、工業、商業、住宅が混在するまちとなっています。外国人が多く住む国際色豊かな地域でもあり、鶴見川は、多くの区民が散歩などで親しむ鶴見区のシンボルとなっています。

臨海部の「海のまち」では、生命科学の世界的な研究施設である「理化学研究所『横浜研究所』」や産学連携を推進する「産学共同研究センター」などが末広地区に整備され、国際的な一大研究拠点＝横浜サイエンスフロンティアとしての再編整備が進んでいます。



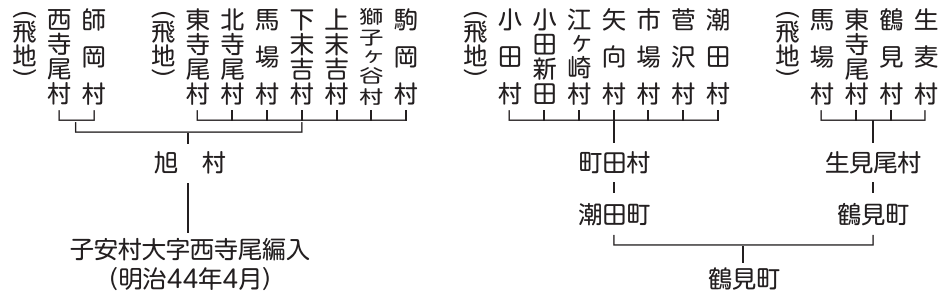
■ 地勢 平成25年4月1日現在

- ・極東: 扇島 ・極西: 上の宮二丁目
- ・東西距離: 8.16km
- ・極南: 大黒ふ頭 ・極北: 矢向六丁目
- ・南北距離: 10.13km
- ・最高地: 馬場四丁目
(海面からの高度47.2m)

■ 鶴見区の誕生

神奈川県橘樹郡

(明治22年)
町村分合改称令により各村合併

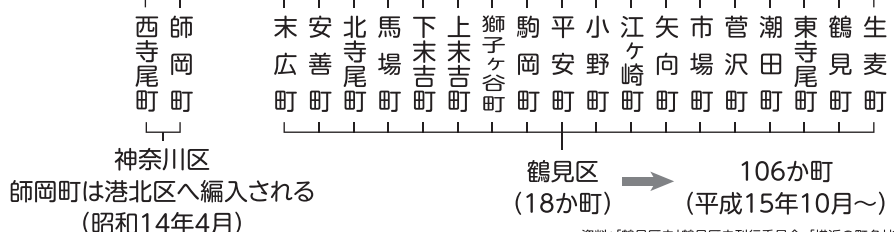


町制施行(大正14年4月)
1か町1か村になる

神奈川県横浜市

(昭和2年4月)
横浜市に編入

(昭和2年10月)
区制施行



資料: 「鶴見区史」鶴見区史刊行委員会・「横浜の町名」横浜市市民局

略年表

年	月	できごと
建久元(1190)	—	源頼朝、上洛 鴨志田十郎、馬場次郎、寺尾太郎、寺尾三郎太郎などが 随行したことが『吾妻鏡』に記されている(平安時代末期)
承久3(1221)	—	承久の乱 戦傷死者のなかに潮田四郎太郎、潮田六郎、寺尾又太 郎、寺尾左衛門尉などの名前が『吾妻鏡』に記されている
元弘3(1333)	—	新田義貞挙兵・鶴見合戦おこる
建武元(1334)	—	『松蔭寺古図』作成(室町時代)
永享8頃(1436)	—	諏訪氏が寺尾城を築城 以後、初代諏訪右馬助から5代目馬之丞に渡って諏訪氏 が城主を受け継ぐ。
天正3(1575)	—	寺尾城主 諏訪氏滅亡
慶長5(1600)	10	関ヶ原の戦い
	6(1601)	— 五街道を整備 鶴見橋(現・鶴見川橋)架設
	16(1611)	— ニヶ領用水完成
嘉永6(1853)	6	ペリー来航
安政6(1859)	6	横浜開港(6月2日開港記念日)
文久2(1862)	8	生麦事件おこる
明治5(1872)	9	12日新橋～横浜間鉄道開通、13日鶴見駅開業
	22(1889)	4 市制施行(人口11万6193人) 市制施行に併せて、鶴見地域に旭村、生見尾村 (後の鶴見町)、町田村(後の潮田町)誕生
	31(1898)	5 京浜急行電鉄の前身「大師電気鉄道」設立
	44(1907)	11 曹洞宗大本山總持寺 鶴見に移転
大正2(1913)	2	浅野総一郎、鶴見埋立組合を組織し、鶴見海岸 495ha(150万坪)の埋立に着手
	3(1914)	5 平岡広高、児童遊園地「花月園」を開園
	12(1923)	9 関東大震災発生
	14(1925)	4 鶴見町(旧生見尾村)と潮田町(旧町田村)が合併 鶴見町となる
	15(1926)	3 鶴見線の前身「鶴見臨港鉄道」開通
	11	第一京浜国道全通
昭和2(1927)	4	鶴見町、旭村(現在の鶴見区全域と神奈川区・港 北区の一部)が横浜市に合併
	10	鶴見区誕生 人口6万2446人 (鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子の5区で区制施行)
	3(1928)	6 市電子安線生麦～金港橋間開通
	18(1943)	7 私鉄鶴見臨港鉄道を国が買収し、国鉄鶴見線開業
	21(1946)	11 児童遊園地「花月園」閉園
	25(1950)	5 花月園競輪場開場
	29(1954)	8 三ツ池公園開園
	31(1956)	6 横浜市、政令指定都市に指定
	33(1958)	3 第二京浜国道全通
	9	台風22号で鶴見川氾濫 家屋水没648世帯、 床上浸水14000戸
	38(1963)	11 国鉄鶴見事故161人死亡
	41(1966)	8 市電生麦線廃止
	42(1967)	5 鶴見川、1級河川に指定
	44(1969)	5 「鶴見会館」開館
	50(1975)	4 獅子ヶ谷市民の森開園
	52(1977)	10 区制50周年 人口23万7678人 (『鶴見区史』編纂・出版)
	55(1980)	1 鶴見図書館開館
	12	末吉地区センター開館(鶴見区第1号)
	60(1985)	10 鶴見公会堂開館
	62(1987)	10 区制60周年 人口24万3751人 (『鶴見の歴史と人々の暮らし』編纂・出版)
	63(1988)	1 鶴見区新総合庁舎完成 鶴見区マスコット「ワックン」制定 「横溝屋敷」市指定文化財第1号に指定
平成元(1989)	9	ベイブリッジ・スカイウォーク完成
平成2(1990)	6	上寺尾小学校コミュニティハウス(鶴見区第1号) 開所

年	月	できごと
平成2(1990)	7	大黒ふ頭埋立完成
	3(1991)	2 鶴見区のシンボルマーク制定
	11	区民の花(サルビア)決定
	6(1994)	5 鶴見駅西口行政サービスコーナー設置 潮田交流プラザ(国際学生会館・地区センター・ 地域ケアプラザ(鶴見区第1号)・ふれあいショップ ポート)開館
	12	高速湾岸線(鶴見つばさ橋)開通
	7(1995)	4 環境事業局鶴見工場本格稼働
	8(1996)	7 大黒海づり公園開園 高齢者保養研修施設「ふれーゆ」オープン
	9(1997)	5 入江川せせらぎ緑道開通
	10	区制70周年 人口25万883人 (『鶴見懐かしの写真集』を編纂・出版) 区の木(サルスベリ)決定
	10(1998)	10 中途障害者地域活動センター「ふれんどー鶴見」 開所
	11(1999)	7 馬場花木園開園
	10	福祉保健活動拠点開設
	12(2000)	4 理化学研究所「横浜研究所」発足
	5	特別養護老人ホーム「新鶴見ホーム」開所
	11	障害者地域活動ホーム「幹」開所
	12	「馬場赤門公園」開園
	13(2001)	3 「産学共同研究センター」開設
	4	「市立大学大学院(連携大学院)」開校
	14(2002)	1 福祉保健センター開設
	15(2003)	4 横浜新技術創造館「リーディングベンチャープラ ザ」開館
	16(2004)	4 国道357号線開通
	18(2006)	1 「ゆうづる」(鶴見市場地域ケアプラザ・鶴見市場 コミュニティハウス)開所
	19(2007)	3 東部地域中核病院「済生会横浜市東部病院」開院
	5	鶴見中央地域ケアプラザ開所
	10	区制施行80周年 人口26万7447人 (『つるみみやげ』制定)
	21(2009)	4 横浜サイエンスフロンティア高校開校
	22(2010)	3 花月園競輪場閉園
	11	「鶴見会館」閉館
	12	鶴見中央コミュニティハウス開館
	23(2011)	3 鶴見国際交流ラウンジ・区民文化センターサル ビアホール開館
	24(2012)	1 生麦地域ケアプラザ開所
	11	鶴見駅 駅ビル「シアル鶴見」開業

コラム 江戸時代の鶴見

江戸時代、鶴見の東海道筋は、街道沿いの生麦村、鶴見村、市場村などに人が集まり、神奈川宿と川崎宿の間で「間の宿」として、賑わいをみせていました。鶴見地域の大部分は幕府の直轄領(天領)で、代官が治めており、旗本領としては、獅子ヶ谷・駒岡・潮田(一時期)などがありました。

また、江戸時代の生麦は『^{おさい}御菜ハヶ浦』の一つとして栄え、新鮮な魚介類を江戸城に献上していました。御菜ハヶ浦とは、江戸城の御菜御肴を定期的に献上する他、各種の船役を勤める見返りとして、現在の東京湾の漁猟に特権を認められていた専門漁業村落のことです。生麦以外には、金杉、品川、大井御林、羽田(いずれも現東京都)、神奈川獅師町、新宿(いずれも現神奈川区)の7浦が指定されていました。



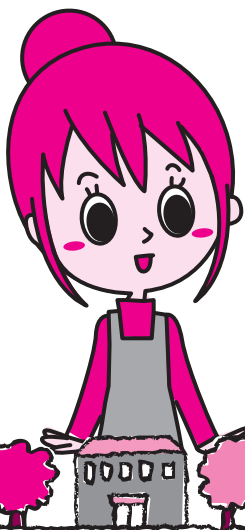
鶴見区的主要指標

区分	鶴見区	横浜市	18区中順位	基準日
人口	279,315人	3,702,551人	3位	H25.10.1
世帯数	129,024世帯	1,617,839世帯	2位	H25.10.1
面積	32.38km ²	435.17km ²	4位	H25.10.1
人口密度	8,626人/km ²	8,508人/km ²	8位	H25.10.1
平均年齢	42.91歳	44.13歳	4位 ※若い順	H25.1.1
老年人口比率 (65歳以上)	18.8%	21.3%	15位	H25.1.1
年少人口比率 (15歳未満)	13.2%	13.0%	7位	H25.1.1
事業所数 (H24経済センサス活動調査)	8,632	114,454	3位	H24.2.1
事業所従業者数 (H24経済センサス活動調査)	103,438人	1,428,600人	5位	H24.2.1

※順位は数値の大きいものから並べた際の順位です

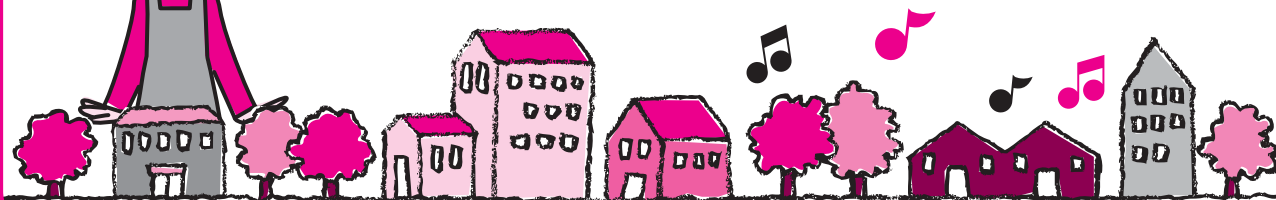
コラム

区民意識調査より



平成24年度鶴見区区民意識調査の結果によると、鶴見区の特徴、イメージとして、「商業、工業、住宅が混在したまち」、「交通の利便性が高いまち」「海岸線の埋立で発展した工業都市」と考える区民が多く、また、半数以上の区民が鶴見区に「愛着を持ち」、「住み心地が良い」と考えています。

生活環境全般に対する重要度については、「バス・電車の便」のほか、「災害対策」、「防犯対策」、「地域医療」を重要と考える区民がそれぞれ7割を超え、東日本大震災以降のまちの安全・安心に対する関心の高さがうかがえます。

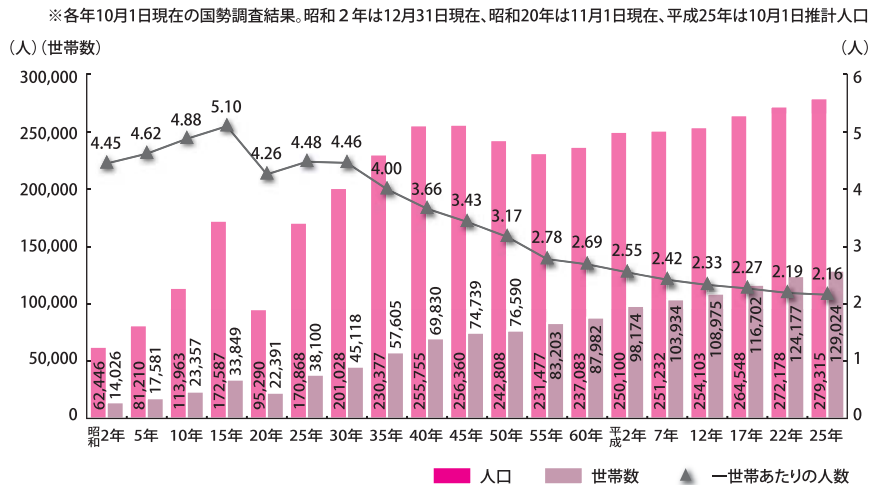


人口の動向

人口及び世帯数の推移

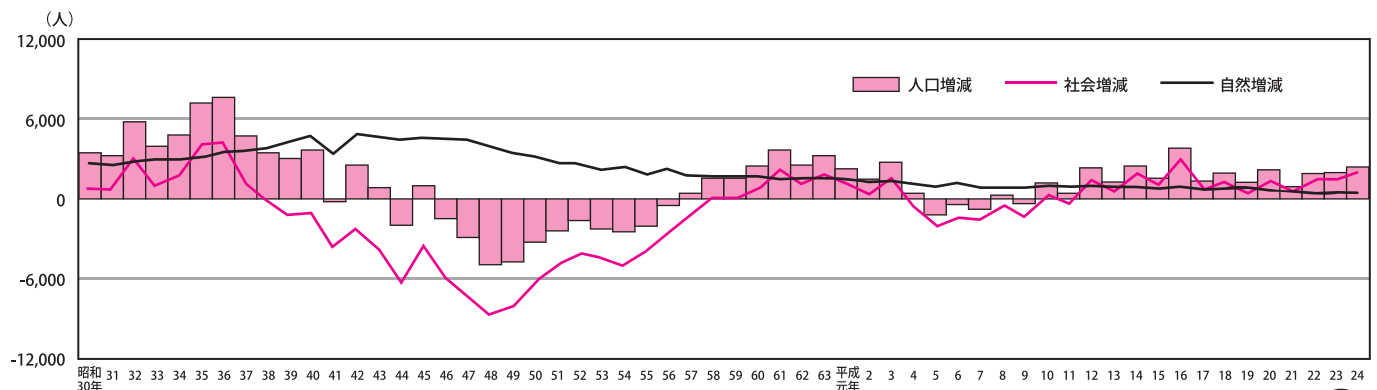
戦後、増え続けていた人口も昭和43年7月の260,777人をピークに減少し、昭和56年4月には229,945人と落ち込みましたが、その後は緩やかな増加傾向が続いています。一方、世帯数は年々増加しています。

平成25年10月1日現在、鶴見区の人口は279,315人であり、世帯数は129,024世帯となっています。



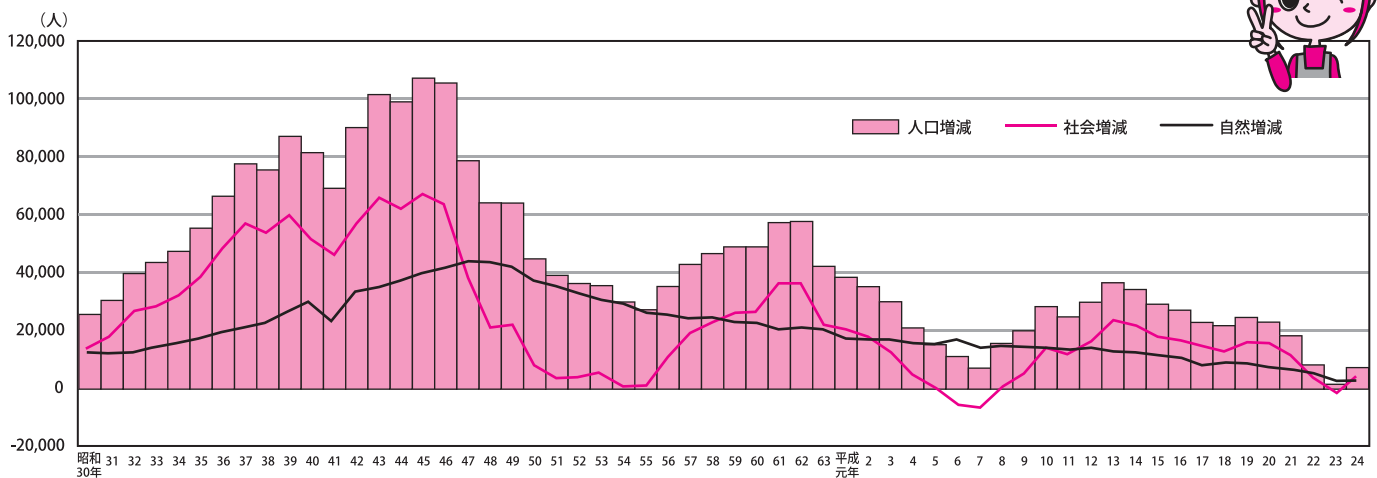
人口増減・社会増減・自然増減の推移

◀ 鶴見区 ▶



平成24年中の鶴見区の人口増加率は、市内18区中第2位でした!

◀ 横浜市 ▶

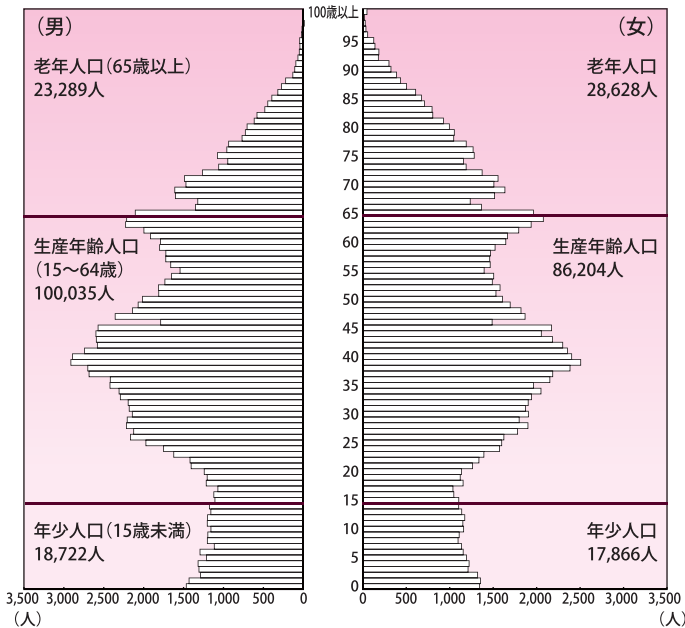


資料:「横浜市の人口～人口動態と年齢別人口」

鶴見区の人口は、増減を繰り返しながら推移しています。昭和40年代後半に、転出者数が転入者数を上回ったこと(社会減)により、人口が大きく減少した時期がありました。その後、昭和50年代後半から人口が増加したものの、いわゆるバブル期を経て再び社会減の傾向が続きましたが、平成12年からは社会増に転じ、近年は比較的安定した数で増加しています。

年齢別人口の状況

鶴見区人口ピラミッド (H25.1.1現在)



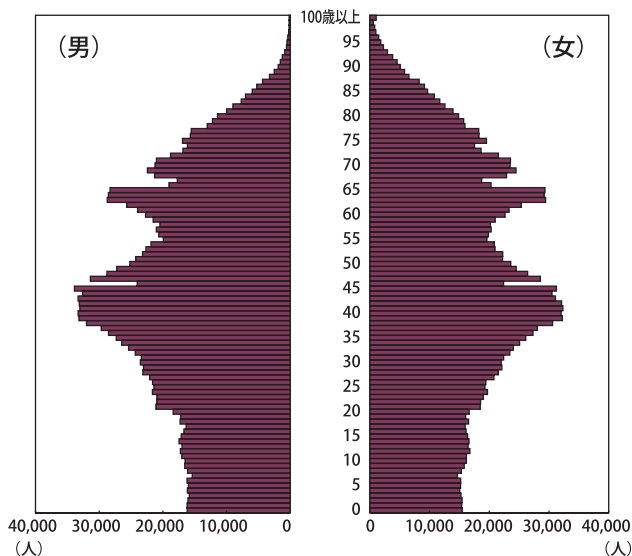
鶴見区の人口ピラミッドには大きく2つの特徴があります。

- ①39~40歳前後の第二次ベビーブーム時期の人口が、64歳前後の第一次ベビーブーム時期の人口より大きな山を描いています。
- ②0~10歳までの人口が増加しており、ピラミッドの裾野が全国及び横浜市のピラミッドに比べて広がっています。

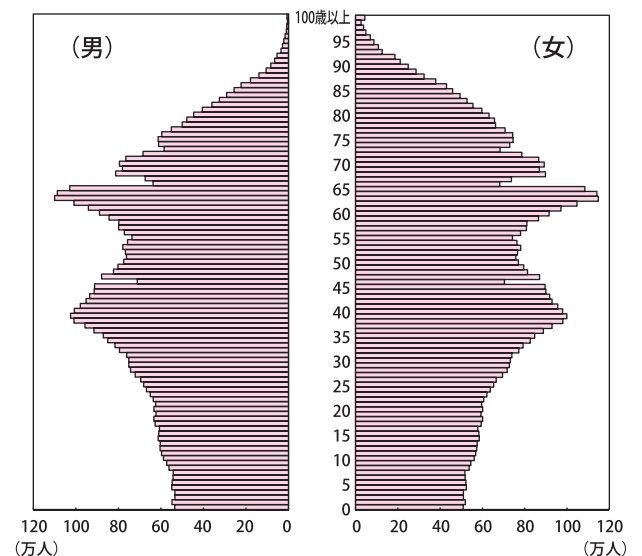


鶴見区は年少人口が増加の傾向にあるんだね!

横浜市人口ピラミッド (H25.1.1現在)



全国人口ピラミッド (H24.10.1現在)



行政区別平均年齢 (H25.1.1現在)

鶴見区の平均年齢は、平成25年1月1日現在42.91歳で、これは18区中、4番目に若い値です。市内で最も平均年齢が低い区は、都筑区で39.75歳、一方高い区は、旭区で46.27歳となっています。

★平均年齢が低い区 BEST4★

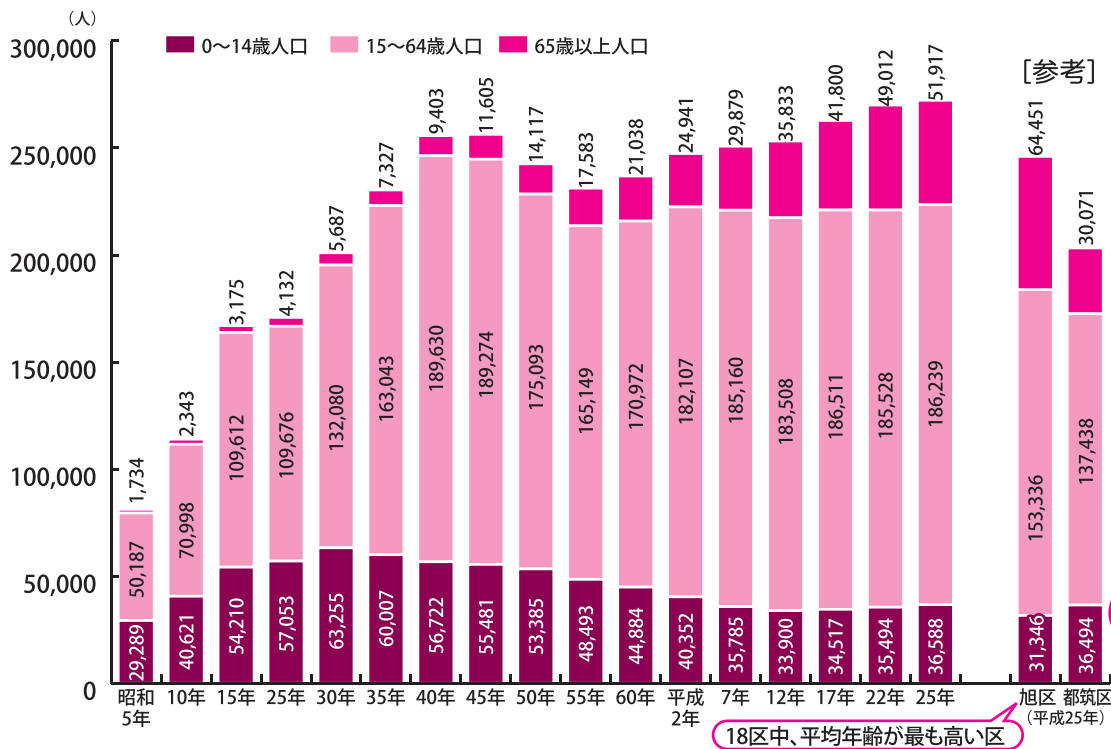
1位	都筑区 (39.75歳)
2位	青葉区 (41.99歳)
3位	港北区 (42.21歳)
4位	鶴見区 (42.91歳)

★平均年齢が高い区 BEST4★

1位	旭区 (46.27歳)
2位	南区 (46.19歳)
3位	栄区 (46.08歳)
4位	磯子区 (46.04歳)

資料:「横浜市の人口～人口動態と年齢別人口」

年齢3区分別人口の推移



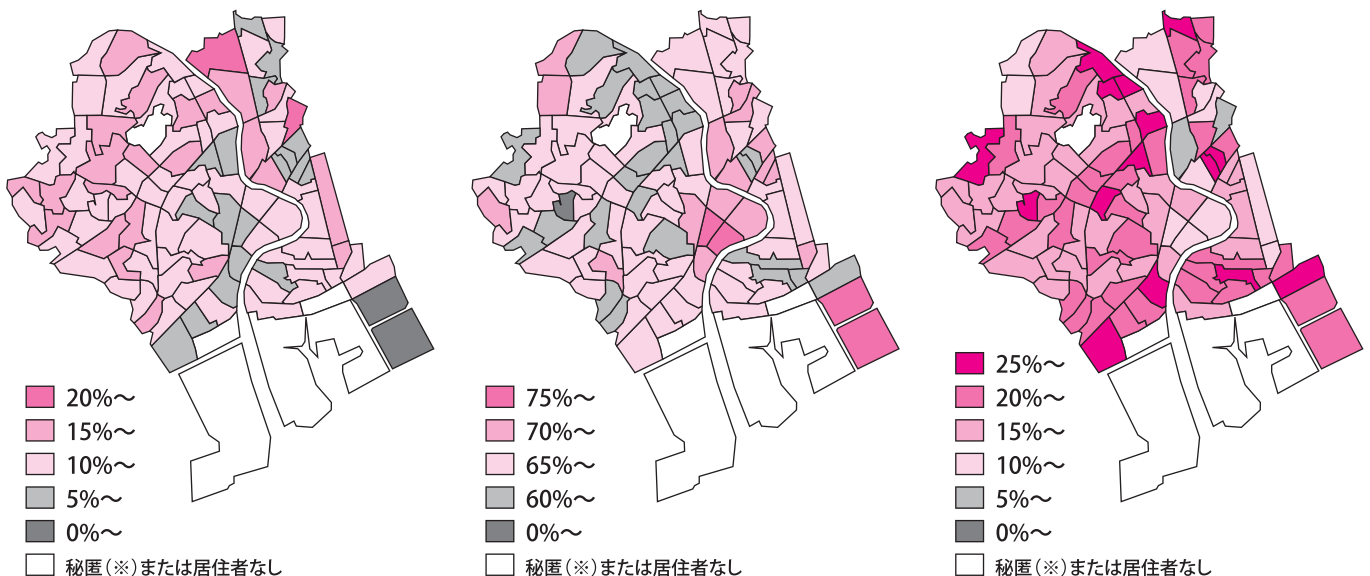
※昭和5年～平成22年については国勢調査の結果数値(各年10月1日現在)、平成25年は1月1日現在推計人口

年齢3区分別人口をみると、老年人口の増加が進んでおり、平成12年に0～14歳の年少人口と、65歳以上の老年人口の数が逆転したあと、近年その差が広がる傾向にあります。また、0～14歳の年少人口は、昭和30年以降減少してはいましたが、平成12年以降は、微増しています。



地図でみる鶴見 ～年少・生産年齢・老年の各人口比率～

住民基本台帳等(H25年3月31日現在)
※大黒ふ頭、扇島は省略しています。



年少人口(15歳未満) 人口比率

生産年齢人口(15～64歳)人口比率

老年人口(65歳以上)人口比率

(※)データを示すことで個人が特定される恐れのあるものは「秘匿」としています。

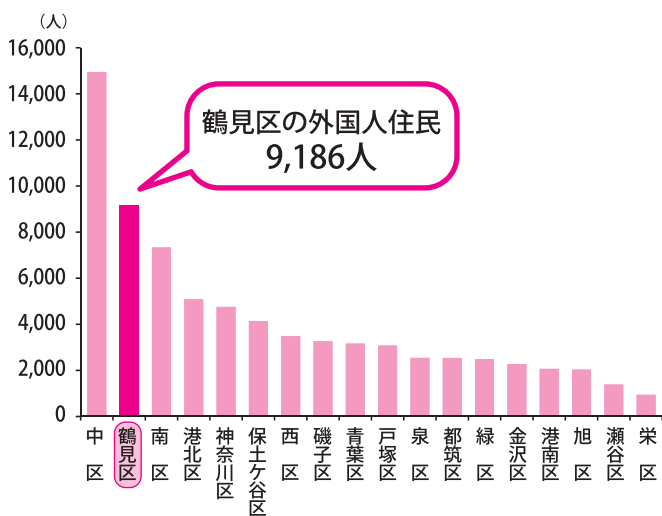
外国人住民

鶴見区の外国人住民

平成25年3月31日現在の鶴見区の外国人住民数は9,186人です。これは中区に続いて市内2番目の多さとなっています。

国籍別にみると、中国、韓国・朝鮮、ブラジルの順に多くなっています。横浜市全体と比べると、鶴見区はブラジルの構成比が大きいことがわかります。

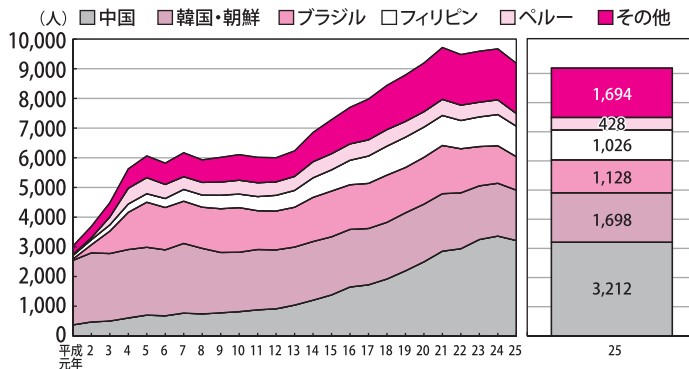
◆18区別外国人住民数◆



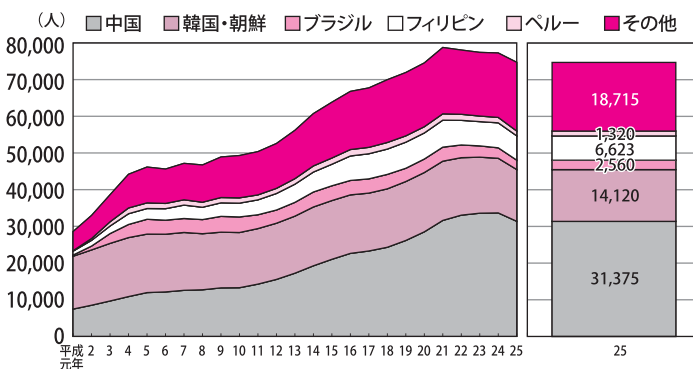
鶴見区の外国人住民
9,186人

◆国籍別外国人住民数の推移◆

◀鶴見区▶



◀横浜市▶



資料 「横浜市統計書」各年3月末現在



鶴見区は、外国人児童数(※)が235人で、18区中1番多いよ!

※ 市立小学校に通う外国人児童の数
資料:横浜市教育委員会「市立学校現況」(平成25年5月1日現在)

※注意※

平成24年7月9日に「外国人登録法」が廃止になり、改正住民基本台帳法の施行により、外国人住民も住民基本台帳に記載されるようになりました。



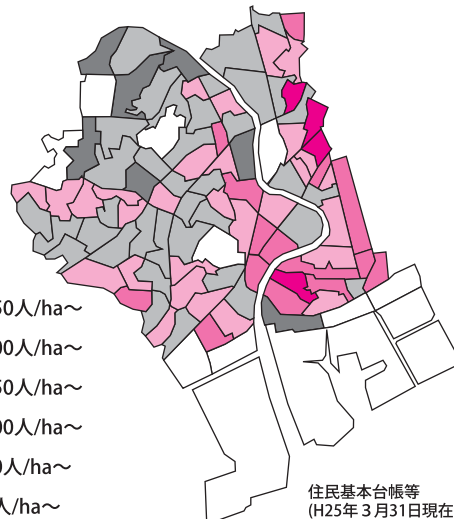
地図でみる鶴見 ～人口密度～



※大黒ふ頭、扇島は省略しています。

鶴見区内で人口密度の高い町は、尻手一・三丁目、本町通、市場上町などです。

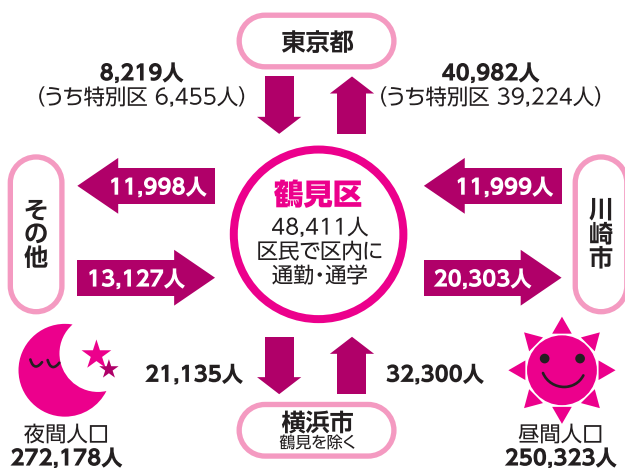
また、鶴見駅周辺と、川崎市との市境の人口密度が高い傾向にあります。



流出人口・流入人口・昼夜間人口

流出人口・流入人口

鶴見区に常住(居住)する15歳以上の就業者及び通学者数は144,457人で、そのうち、区内で就業・通学する者は48,411人、市内他区へ就業・通学する者は21,135人となっています。また、横浜市以外では、鶴見区からは東京都への流出が40,982人と多くなっています。



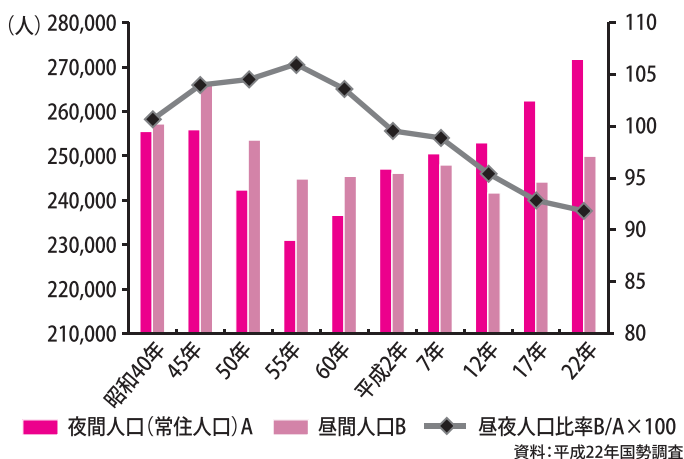
昼夜間人口

平成22年国勢調査で、鶴見区の昼夜間人口比率が低下した一方、横浜市では前回より1.1ポイント増加し、91.5になりました。

平成22年の鶴見区の昼間人口は250,323人、夜間人口は272,178人であり、平成2年以降、夜間人口が昼間人口を上回っています。

また、昼夜間人口比率は92.0で昭和55年の106.1をピークに減少を続けています。

◆昼夜間人口・昼夜間人口比率の推移◆



労働力人口・就業状況

労働力人口・労働力率

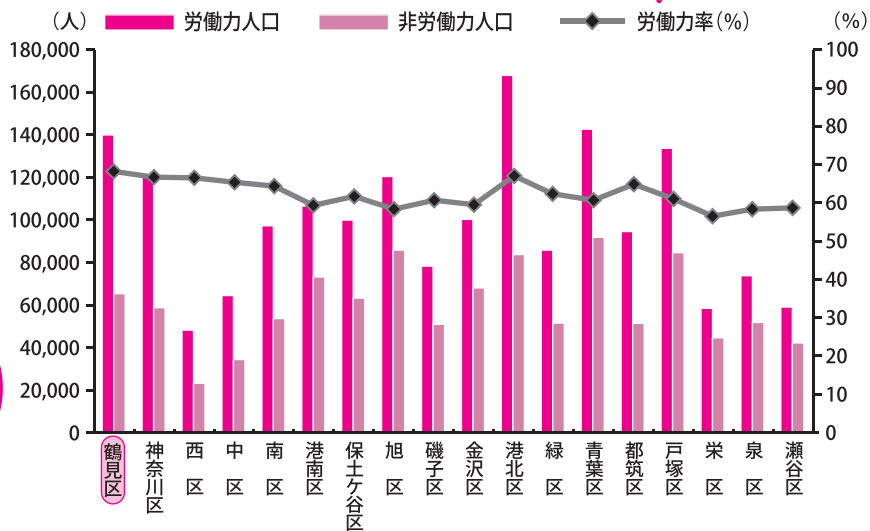
鶴見区の労働力人口は、140,424人で、行政区別にみると、港北区、青葉区に次いで、3番目の多さです。一方、鶴見区の労働力率は68.1%で、18区中1位となっています。



鶴見区の労働力率は18区の中で一番高いんだね!

◆行政区別労働力状態◆

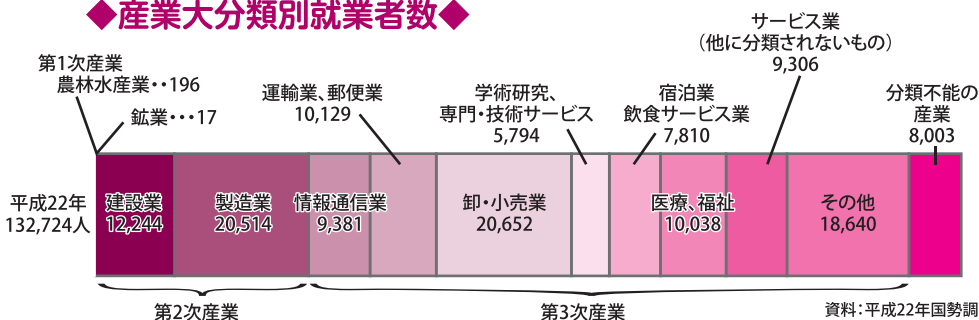
15歳以上人口に占める労働力人口(就業者と完全失業者の計)の割合



就業状況

鶴見区に就業者は、第3次産業、第2次産業、第1次産業の順に多く、産業大分類別にみると、卸売業・小売業の就業者数が20,652人と最も多くなっています。

◆産業大分類別就業者数◆

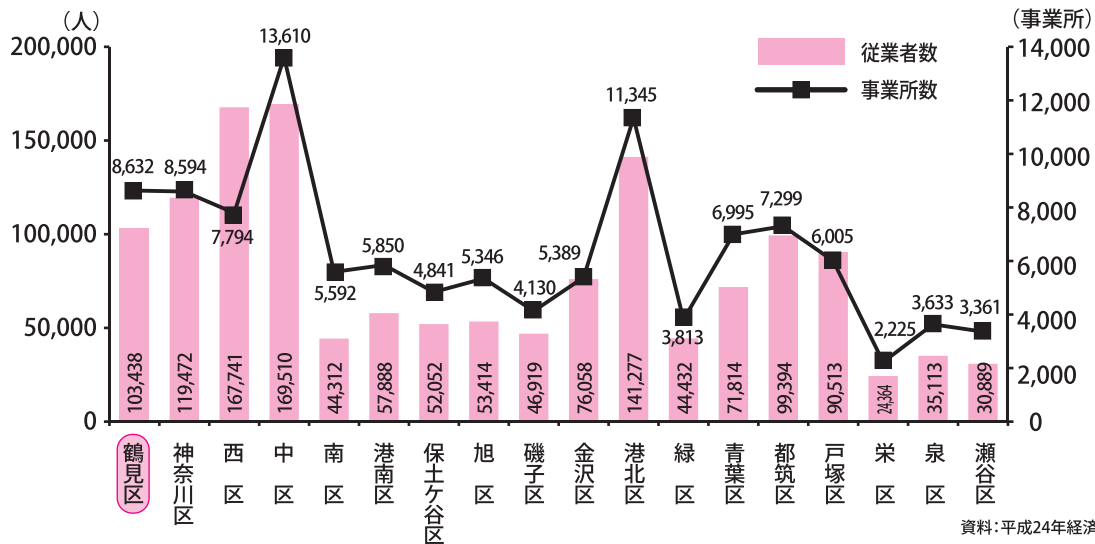


事業所

区別事業所数・従業者数

平成24年の鶴見区の事業所数は、8,632事業所となっており、18区の中では、中区(13,610事業所)、港北区(11,345事業所)に続き、3番目の多さとなっています。

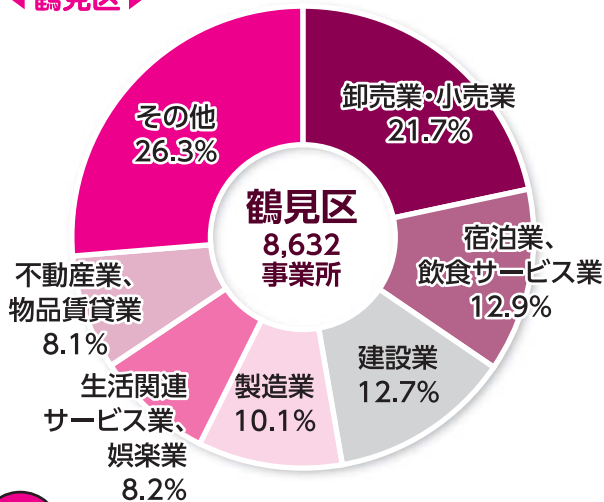
従業者数については、103,438人で、中区、西区、港北区、神奈川区に続いて5番目に多くなっています。



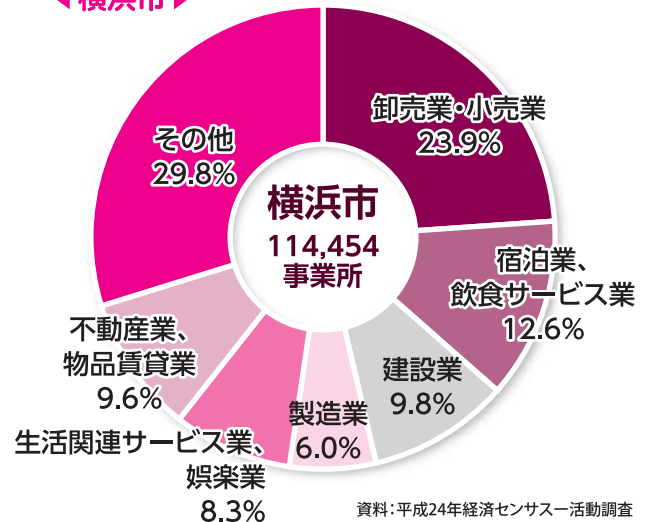
資料：平成24年経済センサスー活動調査

事業所数の産業大分類別構成比〈鶴見区・横浜市〉

◀ 鶴見区 ▶



◀ 横浜市 ▶



資料：平成24年経済センサスー活動調査

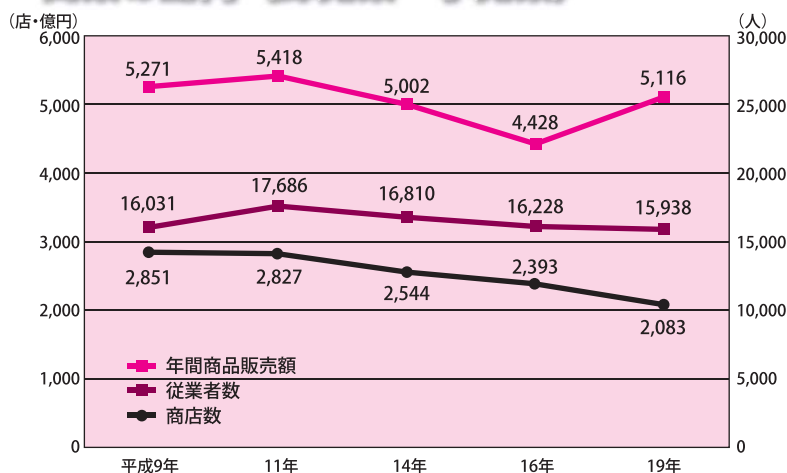


鶴見区の実業所数の構成比は、大きい順に、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、建設業、製造業となっています。

横浜市は、製造業が6,873事業所で、構成比では約6.0%であるのに対し、鶴見区の製造業は872事業所で約10.1%を占めています。製造業の実業所の市内約8分の1が鶴見区にあり、鶴見区は製造業の割合が高いことがわかります。

商業

商業の動向（卸売業・小売業）



平成19年の商業統計調査の結果をみると、平成16年に比べて卸売業、小売業ともに、商店数が減少しています。

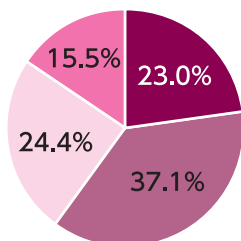
従業者数に関しては、卸売業が増、小売業が減となりましたが、従業者数全体で見ると減少となっています。これに対して、年間商品販売額は、全体で688億円増加しています。

鶴見区は、卸売業では、建築材料・鉱物・金属材料の割合が高く、小売業では、飲食料品の割合が高いのが特徴だよ!

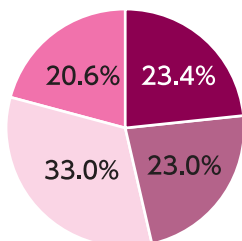
産業中分類別年間商品販売額構成比

卸売業

◀ 鶴見区 ▶



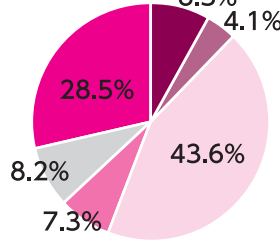
◀ 横浜市 ▶



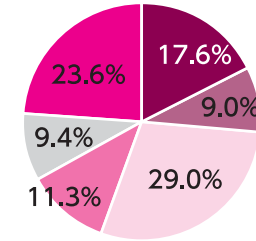
■ 飲食料品 ■ 機械器具
■ 建築材料、鉱物・金属材料 ■ その他

小売業

◀ 鶴見区 ▶



◀ 横浜市 ▶



■ 各種商品 ■ 自動車・自転車
■ 織物・衣類・身の回り品 ■ 家具・じゅう器・機械器具
■ 飲食料品 ■ その他

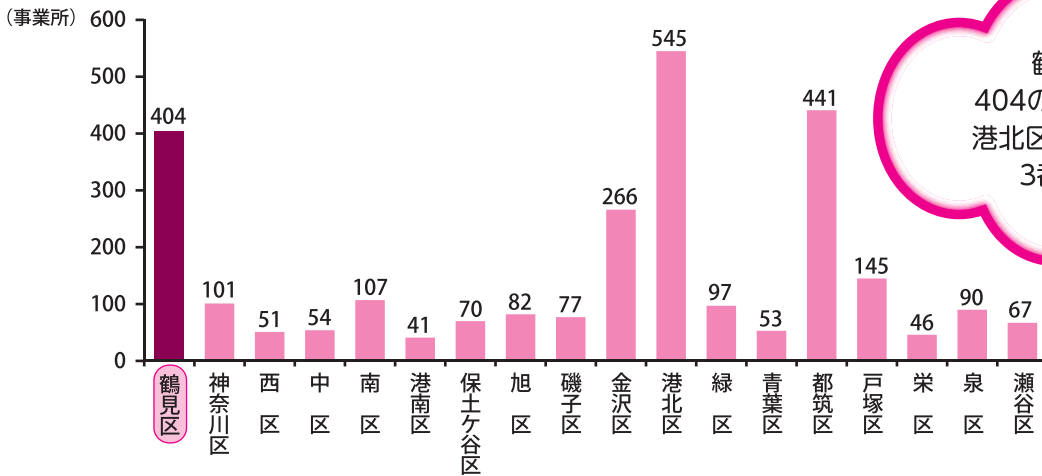
区別商店数・従業者数・年間商品販売額

区別	商店数			従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	年間商品販売額順位
	総数	卸売業	小売業			
横浜市	26,032	5,634	20,398	248,612	9,788,249	
鶴見区	2,083	465	1,618	15,938	511,645	7位
神奈川区	2,092	680	1,412	19,348	1,040,858	4位
西区	2,001	418	1,583	24,747	1,711,786	1位
中区	2,802	723	2,079	23,058	1,114,208	3位
南区	1,575	327	1,248	10,126	201,363	15位
港南区	1,313	182	1,131	14,231	406,050	9位
保土ヶ谷区	1,157	191	966	10,159	324,630	11位
旭区	1,221	189	1,032	11,195	264,256	12位
磯子区	948	147	801	7,551	182,858	16位
金沢区	1,381	308	1,073	13,870	531,685	6位
港北区	2,186	632	1,554	23,940	1,355,471	2位
緑区	872	138	734	8,856	237,701	13位
青葉区	1,473	224	1,249	14,227	381,675	10位
都筑区	1,624	388	1,236	17,361	614,048	5位
戸塚区	1,283	246	1,037	14,919	424,086	8位
栄区	468	91	377	4,263	95,334	18位
泉区	738	122	616	7,475	167,709	17位
瀬谷区	815	163	652	7,348	222,886	14位

資料：平成19年商業統計調査

工業

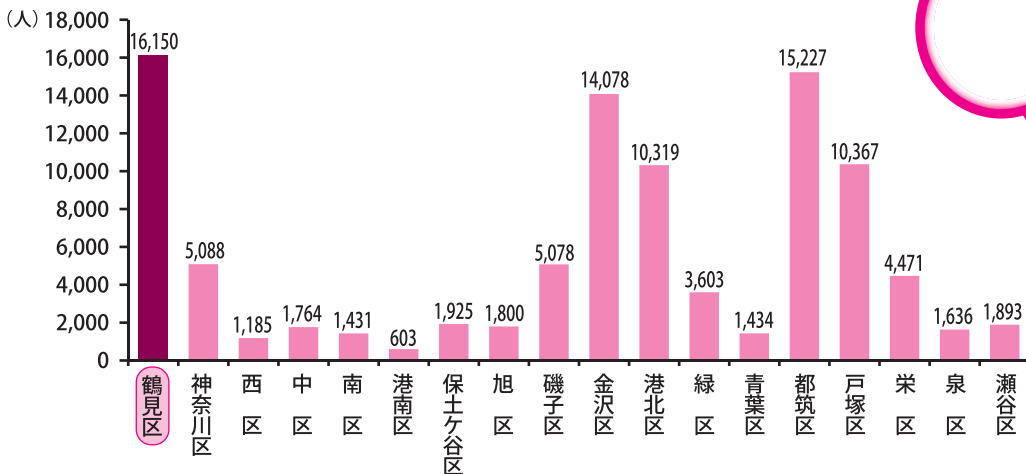
区別事業所数（工業）



鶴見区内には
404の事業所があって、
港北区、都筑区に続いて
3番目に多いよ!



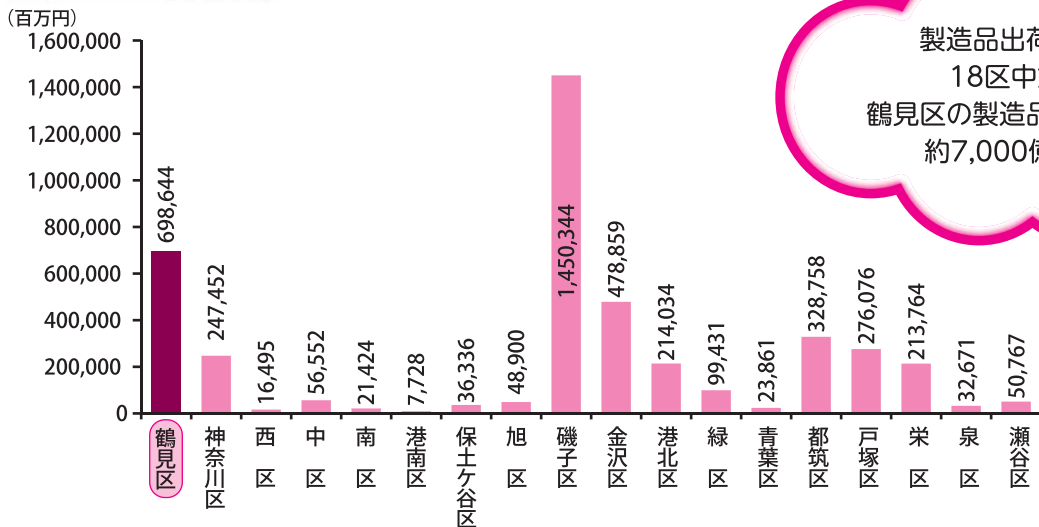
区別従業者数（工業）



鶴見区の従業者数は
16,150人で、
18区中、一番多いよ!



製造品出荷額等



製造品出荷額等は、
18区中第2位!
鶴見区の製造品出荷額等は、
約7,000億円だよ!



鶴見区は、高度経済成長期に日本の重工業を支えた京浜工業地帯の中心でした。事業所数については、昭和48年の1,096事業所をピークに、平成24年には404事業所と4割弱に減少し、また従業員数についても、60,000人を上回っていた昭和30年代後半と比べて、約4分の1となりましたが、それでも鶴見区は、横浜市内の工業で重要な位置を占めています。

住宅

住宅の建て方別の世帯数

(単位:世帯)

	鶴見区	横浜市
一戸建	40,552	586,377
長屋建	1,439	27,122
共同住宅	77,245	926,880
その他	374	3,142
合計	119,610	1,543,521

住宅の建て方をみると、共同住宅が最も多く77,245世帯(住宅に住む一般世帯数に占める割合64.6%)と2世帯に1世帯以上が共同住宅に住んでいることとなります。次いで一戸建てが40,552世帯(33.9%)となっています。

共同住宅に住む世帯の割合は、横浜市全体の60.0%(926,880世帯)と比べ4.6ポイント上回っています。

資料:平成22年国勢調査



持ち家に住む一般世帯は
56.5%だよ!

鶴見区の用途別水道使用量

平成24年度の鶴見区の水道使用量は、約2,955万m³でした。そのうち、公衆浴場用が約18万m³で、横浜市全体の公衆浴場用水道使用量(約93万m³)の約20%を占めています。

ちなみに、鶴見区の平成24年末の公衆浴場数は35です。近年は減少傾向が続いていますが、18区中、中区に次いで2番目の多さとなっています。

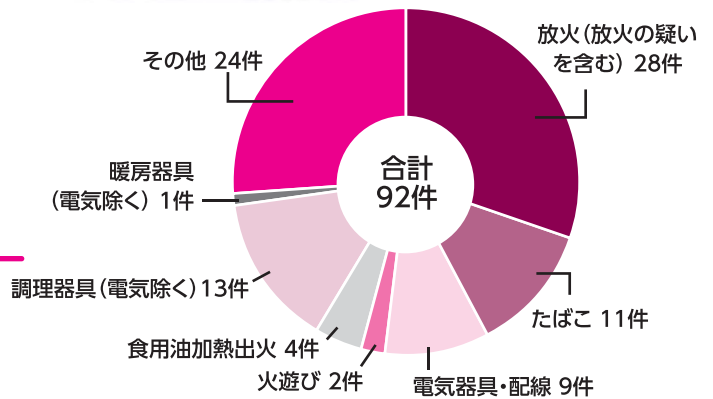
資料:水道局・横浜市統計書

消防

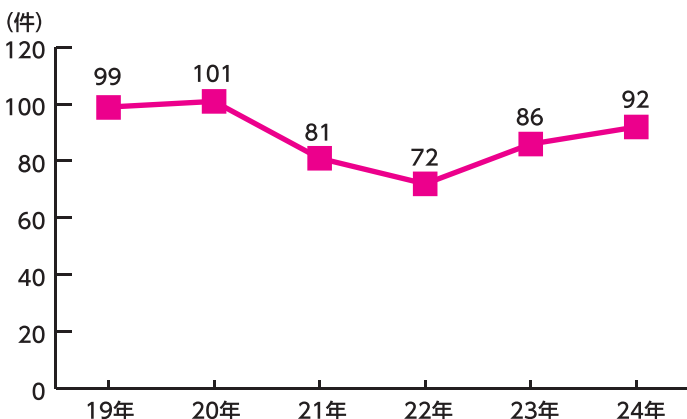
平成24年の火災発生件数は、92件で、2年連続で増加しました。火災の原因としては、「放火(放火の疑いを含む)」が28件で一番多く、次いで「調理器具(電気除く)」が13件、「たばこ」が11件となっています。

また、平成24年の救急車の出動件数は、13,323件であり、出動理由としては、急病が8,869件と一番多く、全体の6割以上を占めています。

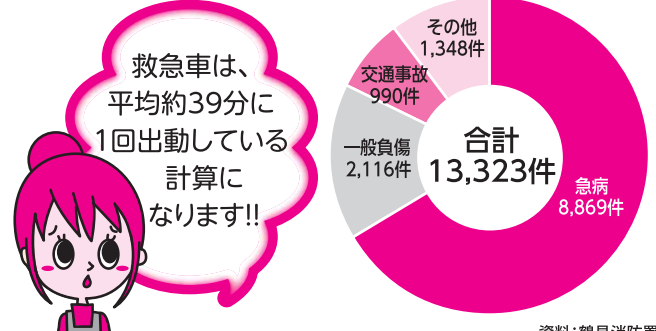
火災原因別件数



火災発生件数の推移



救急車出動理由

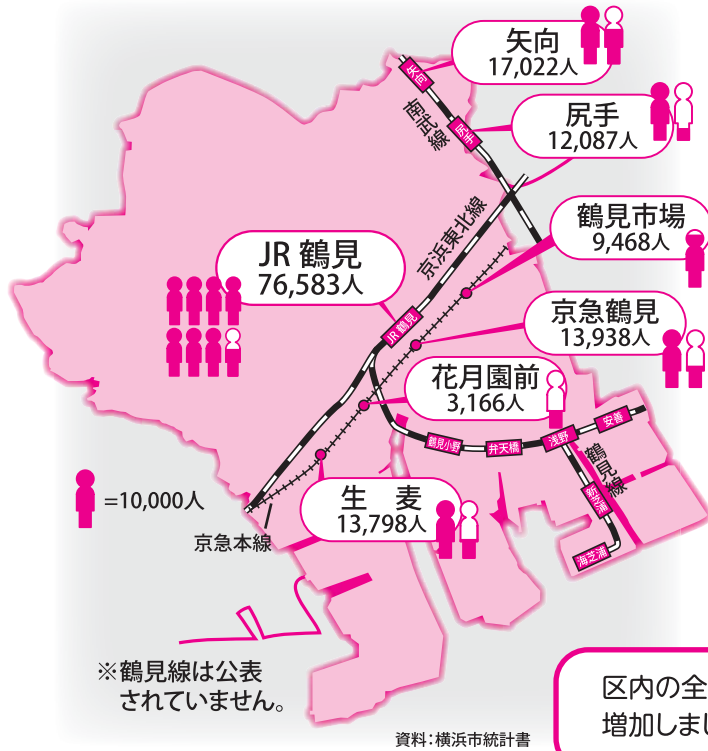


救急車は、平均約39分に1回出動している計算になります!!

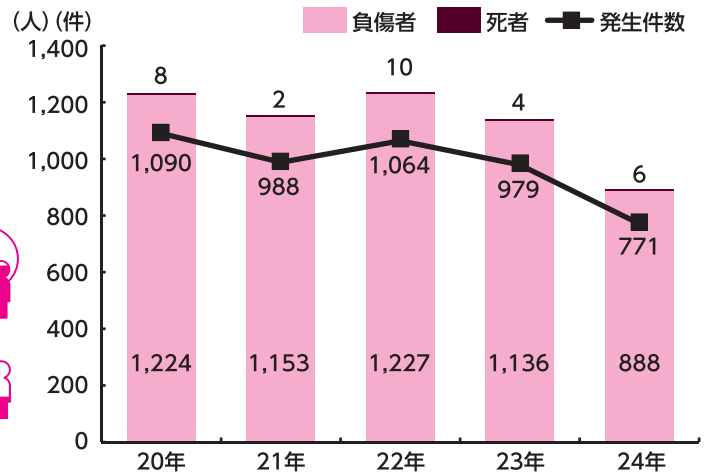
資料:鶴見消防署

交通

区内駅別一日平均乗車人員 (平成24年度)



交通事故発生件数と死者・負傷者の推移



平成24年中の交通事故発生件数は771件、負傷者数は888人となっており、昨年より大幅に減少しました。

資料:鶴見警察署

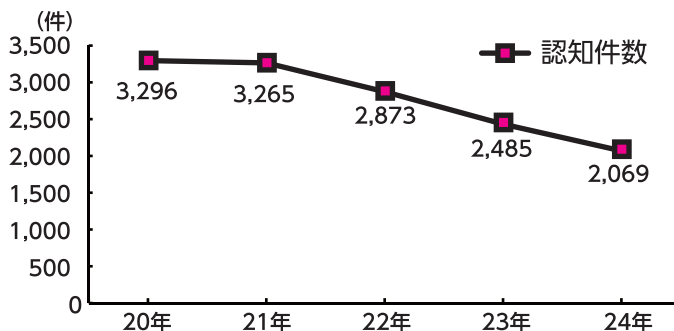
区内の全ての駅で、前年度よりも乗車人員が増加しました。



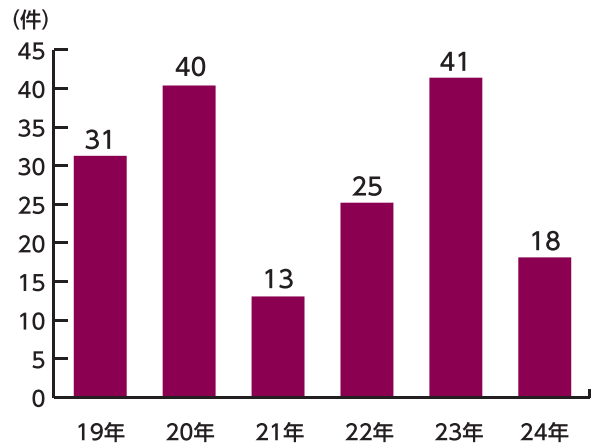
犯罪

犯罪(刑法犯)認知件数の推移

平成24年中の鶴見署の犯罪認知件数は、平成19年以降5年連続で減少傾向にあります。



振り込め詐欺件数推移



犯罪(刑法犯)の種類別認知件数 (平成24年)

	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯		知能犯	風俗犯	その他の刑法犯	総数
			自転車	その他				
鶴見署	14	158	532	1,030	72	20	243	2,069
横浜市	210	2,345	6,916	15,243	1,082	240	3,448	29,484

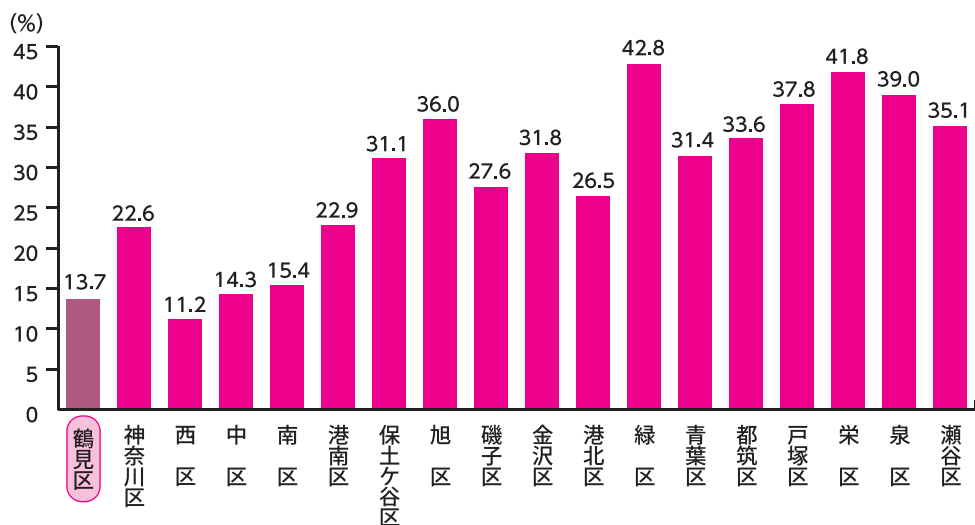
自転車の盗難が増加しています。鍵をかけて管理人のいる駐輪場など、決められた場所に駐輪しましょう!



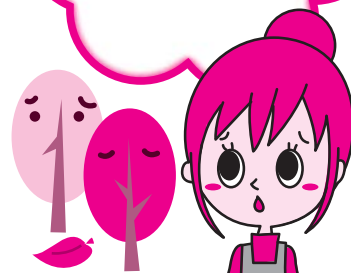
資料:鶴見警察署

環境

緑被率 (平成21年調査)

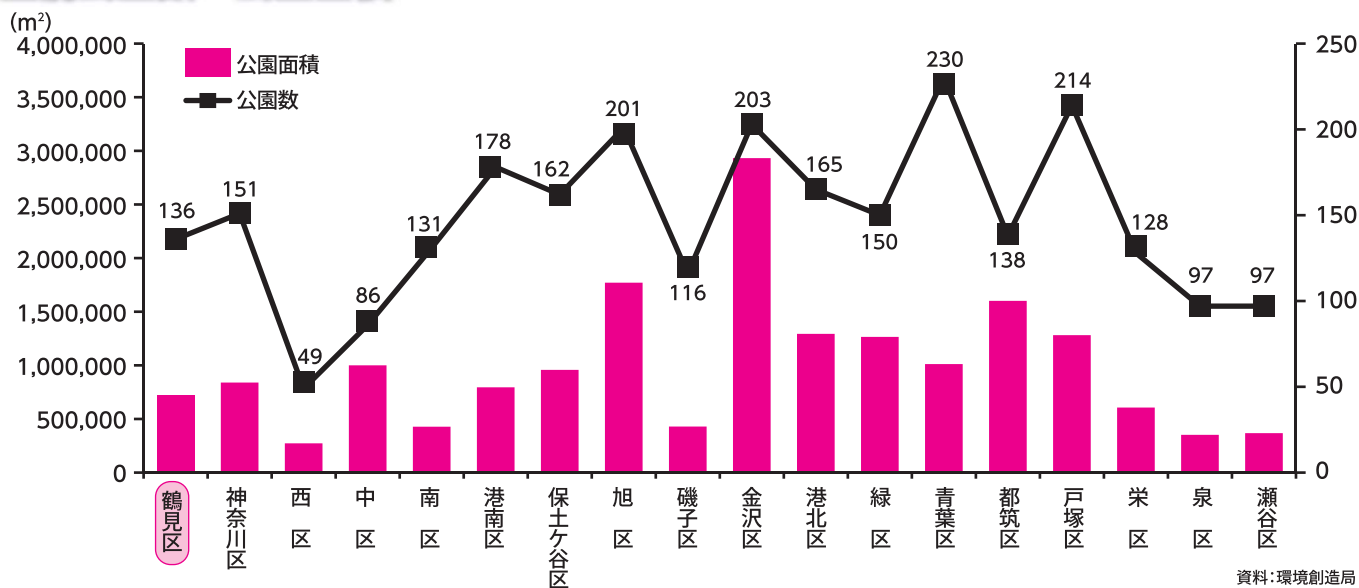


鶴見区の緑被率は、18区中17位です。鶴見区の緑被率は、年々減少傾向にあります。



区別公園数・公園面積 (※県立公園含む)

(平成25年7月1日現在)



資料:環境創造局

鶴見区には、平成25年7月1日現在、136の公園があり、その面積は720,146㎡となっています(県立公園含む)。そのうち、県立公園である三ツ池公園が、区内の公園面積数の約4割を占めています。

鶴見川について

鶴見川は、全長42.5キロメートル、横浜市内唯一の一级河川で、多摩丘陵の山中の源流から、区内を北から南になだらかに蛇行しながら流れ、東京湾に注いでいます。

流れが緩やかで水量が豊かなことから、古くから流域の水運に使われ、内陸部の農産物は地先の河岸から河口に運ばれ、外からの物資もまた鶴見川によって内陸部に運ばれ、川筋はたいへん賑わいました。しかし、勾配がなだらかなため、満潮時には、海水が鶴見川を逆流し、農業用水には適していませんでした。そのため、駒岡、末吉などの鶴見川西側ではため池を作って、田に水を引いていました。現在も残る二ツ池、三ツ池は当時のため池です。対岸の矢向、市場などでは、多摩川から引いた二ヶ領水路を農業用水として使用していました。

また、ひとたび大雨が降ると洪水を繰り返してきたため、昔から「暴れ川」と呼ばれ、流域の人々の生活や命をおびやかしてきましたが、現在では、護岸整備が進み、昭和57年の台風18号による氾濫以降、大規模な被害は発生していません。近年は、流域の都市化に伴い、工場や生活排水等により、鶴見川の汚染が進みましたが、現在、川をきれいにしようと環境保全活動が進んでいます。



区民フェスティバル

鶴見区では、毎年、春(三ツ池公園(文化・環境)フェスティバル)・夏(鶴見川サマーフェスティバル)・秋(つるみ臨海フェスティバル)の3回、区民フェスティバルを開催しています。それぞれのフェスティバルは、会場周辺の地区連合町内会や地元企業により組織された実行委員会の企画運営により、開催されています。

三ツ池公園(文化・環境)フェスティバル

多数の区民ボランティア参加のもと、2つのステージにおける学校・活動団体の発表や、フリーマーケット、中学生ボランティアによる牛乳パックの回収などを通じて、「文化と環境」に関心を持ち、積極的に理解することを目的に開催しました。

また、鶴見区の友好交流都市である、福島県西会津町・棚倉町をはじめとする東北被災地県からも出店があり、特産物の販売や都市PRが行われました。

会場 県立三ツ池公園

日時 平成25年5月18日(土)



西会津町「こゆりちゃん」、鶴見区「ワックん」、棚倉町「たなちゃん」

鶴見川サマーフェスティバル



夏の夜空を彩る花火

区民の“ふるさと意識”を醸成するとともに、住民相互の連帯と親睦を深めることを目的に開催しました。

川のイベント(大型カヌー・Eボート体験、クルーズ)、模擬店・PRブース、鶴見川コンサート、鶴見川花火大会など、1日中楽しめるイベントとなっています。

特に、夏の夜空を彩る約1,200発の花火は、鶴見川の夏の風物詩として、区民の皆様にも親しまれています。

また、多数の区民ボランティアに支えられ、無事に開催することができました。

会場 鶴見川および佃野公園周辺 **日時** 平成25年8月17日(土)

つるみ臨海フェスティバル

「鶴見大好き 私のふるさとーみんなで創ろう つるみ臨海部」をテーマとして、臨海部に親しみながら誰もが楽しめるふれあいの場を提供し、子どもから高齢者まで、安心して暮らしているあたたかな地域づくりを目指して、開催しました。

ステージでは、地元小中学生や団体による器楽演奏やダンス等が披露され、出店ブースでは、大分県佐伯市鶴見から「すしトラック」がやってきました。また、野球場内では大日本プロレスによる「こどもプロレス教室」やプロレスの試合が行われ、会場は大いに賑わいました。



小学生によるステージイベント(エイサー)

会場 入船公園

日時 平成25年10月19日(土)



上記、3つの区民フェスティバル以外にも、区内ではさまざまなお祭りやイベントが行われています!

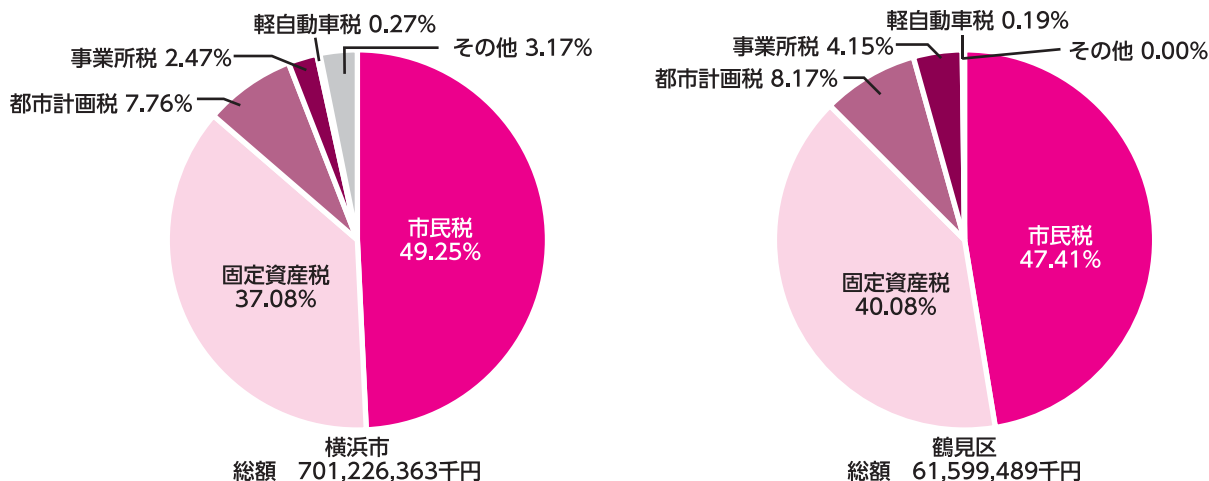
市 税

横浜市の平成24年度の市税収入は、約7,012億円で、前年度に比べ約43億円の減収。税別では、

- ①「個人市民税」は、年少扶養控除廃止などにより増収。
- ②「法人市民税」は、企業収益の回復により増収。
- ③「固定資産税・都市計画税」は、3年毎の評価替えにより大きく減収になっています。

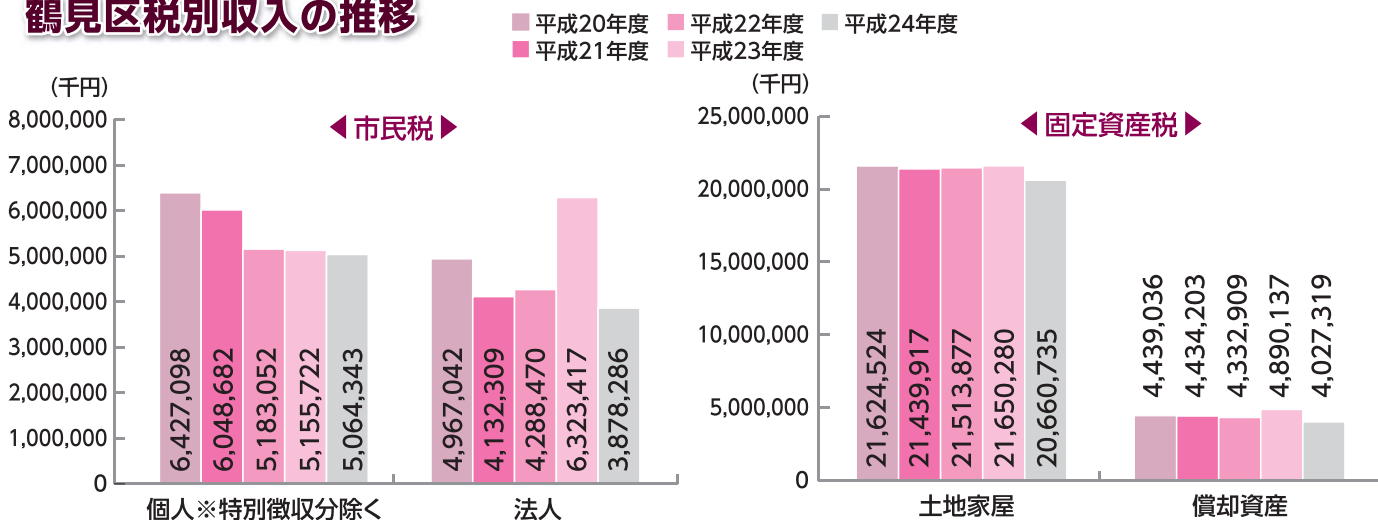
なお、鶴見区の平成24年度の市税収入は約616億円で、市全体の8.78%を占めています。

市税収入の構成比 (平成24年度)



資料：平成24年度市税決算額調

鶴見区税別収入の推移



資料：平成24年度市税決算額調

戸 籍

■ 戸籍数 (本籍) (平成25年3月31日現在)

横浜市合計 1,223,692戸籍 (単位：戸籍)

1位	2位	3位
港北区 100,727	鶴見区 100,621	神奈川区 87,321

■ 住民登録世帯数 (平成25年3月31日現在)

横浜市合計 1,700,283世帯 (単位：世帯)

1位	2位	3位
港北区 159,428	鶴見区 136,221	青葉区 128,574

鶴見区の戸籍数(本籍)は平成25年3月31日現在100,621戸籍、また、区内に住所を定めている世帯の数は、136,221世帯で、それぞれ港北区に次いで18区中第2位の多さとなっています。

昨年に比べて、戸籍数、住民登録世帯数ともに増加しているよ。



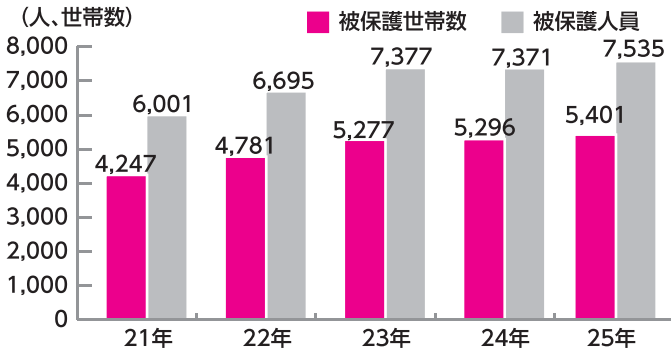
資料：鶴見区戸籍課

生活保護

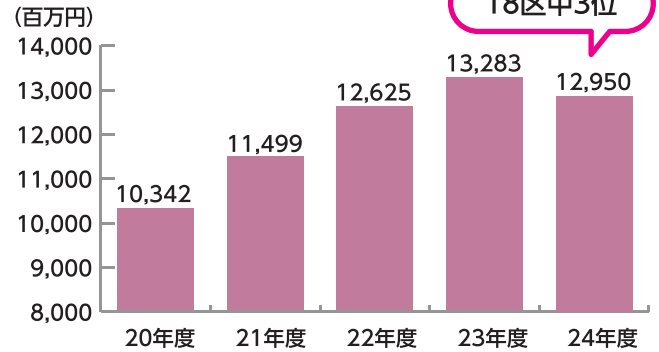
生活保護人員・世帯・保護費の推移

平成25年4月現在の鶴見区において、生活保護を受給している世帯は5,401世帯（18区中3位）で、人員は7,535人（18区中3位）です。
 最近の雇用の流動化等の社会情勢や経済情勢を背景に、今後も被保護世帯数が高い値で推移することが予想されます。

生活保護人員・世帯数の推移（各年4月現在）



生活保護費の推移（各年度）



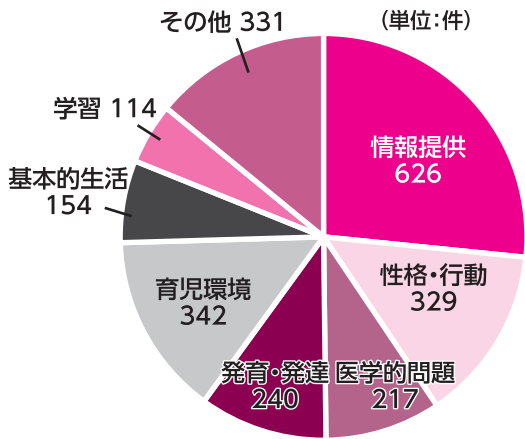
18区中3位

資料：鶴見区保護課

子育て

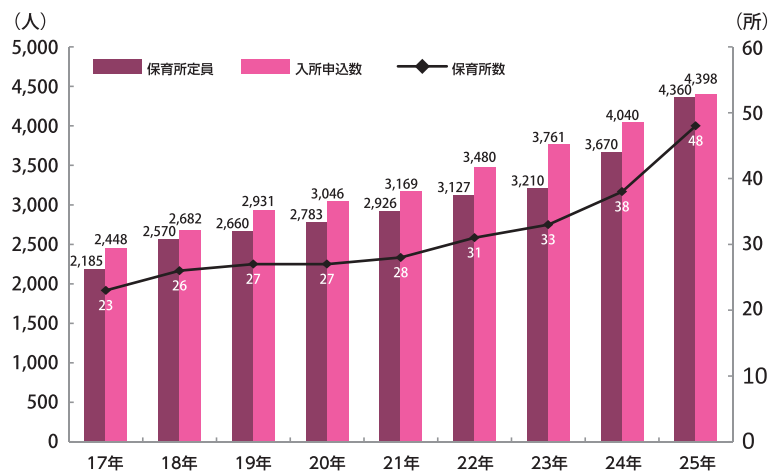
子ども家庭支援相談状況

(平成24年度延べ件数)



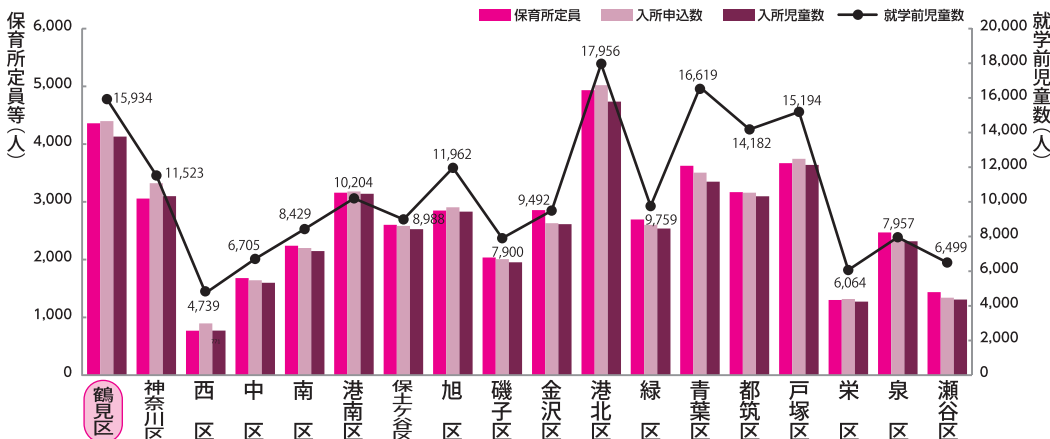
鶴見区の保育所入所状況について

(各年4月1日)



18区の就学前児童数と保育所の状況

(平成25年4月1日)



鶴見区は就学前児童数が18区中3番目に多く、保育所の定員数は2番目に多いよ。でも、就学前児童数が毎年増加しているから、保育所の整備がまだまだ必要な地域もあるよ。



資料：鶴見区子ども家庭支援課

健康

主な死因の状況

がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病による死因が約6割を占めています。

主な死因の死亡数 (単位:人)

	全死因	悪性 新生物	心疾患	脳血管 疾患	肺炎	不慮の 事故	老衰	自殺	肝疾患	慢性閉塞性 肺疾患	腎不全	その他
22年	2,187	701	301	227	184	84	78	68	58	36	35	415
23年	2,180	679	313	221	185	88	81	50	54	32	38	439
24年	2,303	750	305	233	188	83	91	60	60	31	32	470

平均寿命

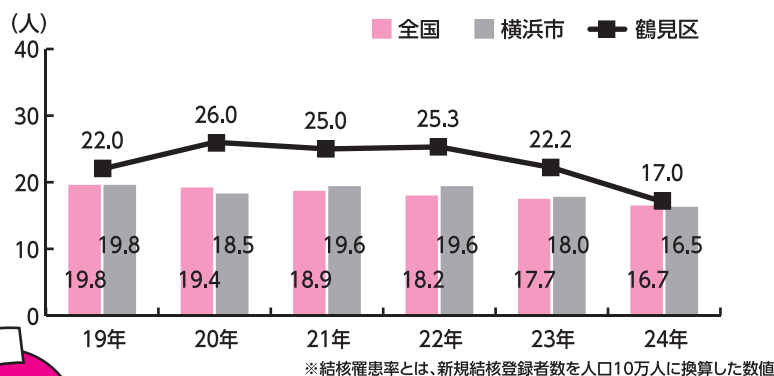
鶴見区の平均寿命(0歳の平均余命)は、男性で18区中17位、女性で18区中14位となっています。

区別生命表:平均寿命 (0歳平均余命)(平成23年)

	男	女
横浜市	80.27	86.30
鶴見区	78.76	85.61
神奈川区	79.75	86.31
西区	79.60	85.22
中区	76.41	84.57
南区	79.07	84.79
港南区	80.59	87.16
保土ヶ谷区	79.45	86.47
旭区	79.71	86.00
磯子区	79.72	86.44
金沢区	81.03	86.75
港北区	81.32	86.94
緑区	81.14	85.84
青葉区	82.04	87.10
都筑区	82.49	86.90
戸塚区	80.95	86.36
栄区	81.38	88.08
泉区	80.76	86.22
瀬谷区	79.69	85.49

結核

鶴見区の結核罹患率は、ここ数年減少傾向ではありますが、20~59歳までの働き盛りの人の発症が多く、約3割が排菌している状態で発見されています。



結核の予防には、栄養バランスのとれた食生活、十分な休息、禁煙など健康管理に注意することが大切だよ！
咳が2週間以上止まらない、微熱が続く等の症状がある場合は、最寄りの内科・呼吸器科を受診しましょう。

資料:鶴見区福祉保健課

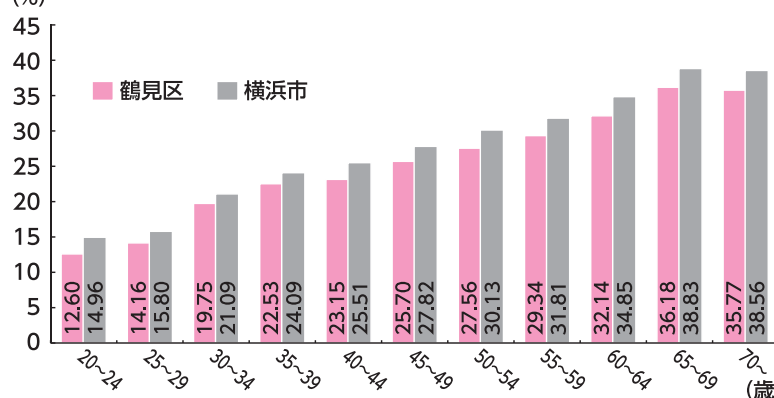
選挙

最近の投票率

選挙名	選挙日	投票率(%)	
		鶴見区	18区中順位
横浜市長選挙	H25.8.25	26.25	18位 横浜市29.05
参議院議員通常選挙 (神奈川県選挙区)	H25.7.21	52.37	16位 横浜市55.54
衆議院議員総選挙 (小選挙区)	H24.12.16	56.72	16位 横浜市60.50
統一地方選挙(市会)	H23.4.10	44.42	17位 横浜市46.73
参議院議員通常選挙 (神奈川県選挙区)	H22.7.11	53.32	17位 横浜市56.65

年齢別投票率

平成25年8月25日執行横浜市長選挙



鶴見区の投票率は低迷しており、近年の選挙ではいずれも横浜市平均を下回っています。また、年齢別に投票率をみると、20代の投票率が最も低く、若年層の投票率の向上が課題となっています。

コラム

幻の東京オリンピックと鶴見

「お・も・て・な・し」が一躍流行語になり、日本中が再招致決定に湧いた2020年東京オリンピック。前回開催は、高度経済成長転換期と言われた1964年のことでした。

しかし、実は、それより以前の1940年、一時は開催が正式決定したものの、日中戦争などの影響により実現に至らなかったことから、「幻」と呼ばれた東京オリンピックがあったことをご存知でしょうか？

◆ 第二京浜国道と響橋（めがね橋）

「幻の東京オリンピック」のマラソンコースとして、明治神宮競技場をスタート地点とし、総持寺付近で折り返す案が持ち上がり、ルートとなる第二京浜国道は、オリンピックの開催に合わせて急ピッチで整備されました。

また、「かながわの橋100選」にも選ばれた“めがね橋”こと響橋は、このマラソンコースの折り返し地点のランドマークとして建設されたものです。

計画が実現していれば、文字通りこの橋の下で、選手たちに向けた声援が響き渡る光景を見ることが出来たのかもしれませんが。



第二京浜国道をまたぐ響橋（1956年頃）
横浜市史資料室所蔵

◆ 世界に誇るボートレース会場

「幻の東京オリンピック」の計画段階では、末吉橋を中心とした鶴見川の下流部に、長さ約3,000メートル、幅約86メートルのボートレース会場を建設する計画もありました。

川の両岸に道路や一大公園を設け、電車やバスを走らせる予定もあったこの計画を、「世界に誇り得るもの」と、当時の「市政春秋」は伝えています。

この他にも、アントワープオリンピック水泳予選会場となった房野池（跡地：市営岸谷プール）、1964年の東京オリンピックで聖火が通過した鶴見区役所、北京パラリンピックのボート競技代表の練習場となった鶴見川漕艇場など、区内には、オリンピックと縁深い場所がまだまだあります。



2020年東京オリンピックでも、鶴見区に関する場所や人の活躍に期待しましょう。



つるみ
マップ



コラム 鶴見にもお城があった!!

鶴見には、戦国時代の武将・諏訪三河守が築いたといわれる『寺尾城』の遺構があります。お城といっても、天守閣のあるような建物ではなく、砦のような山城であったようですが、寺尾城については、未解明の部分が多く、その全容は謎に包まれています。

代々小田原北条氏に仕える武将であった、諏訪氏が、1575年に滅びるまで、5代にわたり百数十年間、寺尾城に居住したと言われています。

横浜市の統計資料を探すなら



横浜市統計ポータルサイト

<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/>



横浜 統計

検索

横浜市の最新の人口・世帯数や、主要な統計情報を提供する横浜市のホームページです。

鶴見区の過去から現在にかけての人口・世帯数の推移や、主要な統計情報を見ることができます。本書に載せきれなかった情報もありますので、是非、御利用ください。

[画像イメージ]

区別インデックスを選ぶと区別のデータをみるができるよ!

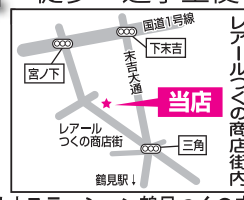
何でも相談できるパソコン教室

横浜鶴見の
パソコン駆込み寺

- ①わからないことだけワンポイントレッスン (回数券)
内容自由設定 Windows8 スマホ タブレット マックにも対応
- ②自分のペースでじっくり学習 (コース制)
初心者大歓迎! 小学生・学生・主婦・社会人・80オシニアまで
ワード・エクセルパワポ基礎・応用・オフィス資格取得
デジカメ・ビデオ活用、年賀状作成など
- ③ホームページ・ビルダー教室 旧版~最新版 hpb18 対応
IBM出身元開発責任者直接指導 市外県外からも通学中

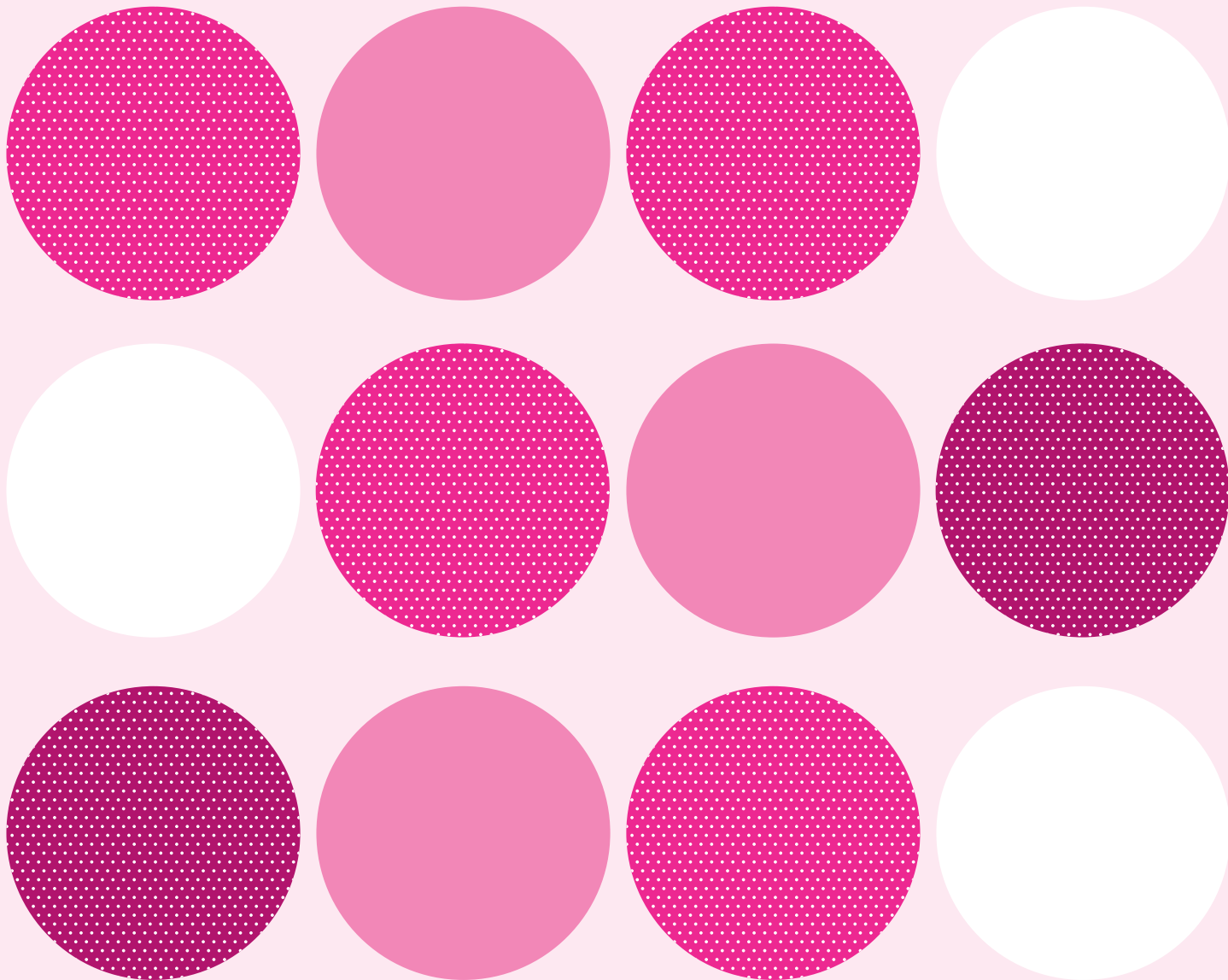
無料体験受付中 電話045-567-8393

自転車・バイク
徒歩・通学至便



キュリオステーション鶴見つくの店
鶴見区佃野町 34-2
(レアルつくの商店街内)
バス停 佃野町・宮の下・寺谷角・亀甲山
教室案内 HP「キュリオ 鶴見」検索

開校5年
実績信頼
技術



発行:鶴見区役所 総務課 統計選挙係

横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1

電話 045-510-1660

FAX 045-510-1889

<http://city.yokohama.lg.jp/tsurumi/>

平成26年1月発行

